



乳がん検診に携わる 診療放射線技師の取り組み

画像センター 放射線室 主任 柳原 洋美

乳がんは女性の 30 歳から 64 歳で、死亡原因のトップとなっています。20 歳代で患う人もいますので、若い時から乳がん検診に関心を持つことが大切です。

当院は、「マンモグラフィ（乳房 X 線検査）検診施設画像認定施設」を取得しています。また、女性技師 5 人が「検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師」で、新人は認定取得に向けて勉強中です。

マンモグラフィ（以下、MG）検査は

検診マンモグラフィ撮影認定技師（左から、岡田菜美、永木亜衣、柳川千裕、中平千尋、筆者）



乳房を圧迫し、2 方向の撮影を行います。痛みを伴う場合がありますが、圧迫することで乳腺と腫瘍の重なりを避けることができ、病変を判別しやすくなります。さらに、MG 検査の利点として、表 1 の 3 つが挙げられます。

当院の MG 装置はハローキティ柄を採用し、室内の壁紙はピンク色であたたかな雰囲気です。撮影時の痛みを和らげるように努めるとともに、受診者の不安な気持ちが、少しでも楽になるようなコミュニケーションを心がけています。

現在、国の指針で定める乳がん検診の内容は問診と MG ですが、検診の受診率向上と死亡率を減少させるために、乳腺密度に適した超音波検査の併用が検討されています。超音波検査の利点は表 2 の 3 つがあり、MG 検査と併用することで、がんの発見率がより高くなった、という報告もあります。当院では、乳腺外来などで医師の指示がある場合や乳がん検診の項目として、超音波検査を実施しています。



マンモグラフィ検査の様子

乳がんは早期に発見し、適切な治療を行えば、良好な経過が期待できます。胃がん検診等で来院された患者さんと接する時、過去に MG 検査のデータがない場合には、乳がん検診を呼びかけるなど、啓発活動にも力を入れています。

今後も女性特有の病気である乳がんの早期発見、早期治療へつながらよう、最新の情報を収集し、撮影技術の向上に努力してまいります。

表 1. マンモグラフィ検査の利点

- ① 腫瘍のみでなく、乳がんの初期症状のひとつである微細な石灰化をとらえることができる。
- ② 乳房全体の変化をみるのに適している。
- ③ 再現性が高く、過去画像との比較が容易である。

表 2. 超音波検査の利点

- ① 妊娠中でも検査ができる。
- ② 圧迫する必要がなく、痛みを伴わない。
- ③ 乳腺密度の高い乳腺でも画像化することが容易である。

新任部長あいさつ

経理部長 神野 耕治

この度、7月1日付けで経理部長を拝命いたしました。経理部は経理課と用度課で組織されており、私は用度課で長年購買と資産管理に携わってきました。今後は用度課の業務を担いながら経理課の業務も管理していくこととなります。経理部は院内の多くの情報を集め経営資源を管理し、最適な活用方法を検討することが重要な仕事だと思っています。今後、用度と経理の業務の合理化、効率性の高い関係強化を進め、病院の経営に資する取り組みを行っていきたくと考えております。

今年の診療報酬改定は、社会保障費の抑制もあり全体としてマイナス改定となりました。医療を取り巻く環境は益々厳しさを増し、大きな成長は見込めなくなると考えられます。このような状況の中、経理部に求められる役割は、より重要になると思います。経理部長として改めて、職責の重さを痛感しております。

今年の病院スローガンは「ハードからソフトへ」キーワードとして「育成、成長、貢献」です。部下の育成、自身の成長に向け、様々な分野に興味を持ち経験を積み重ね、微力ながら病院に貢献できるよう努力してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻をよろしくお願いたします。（写真：左）



総務部長 浅野 光孝

この度の異動まで5年間、経理課長を命ぜられておりましたが、その前は総務課で9年間勤務しておりましたので、いわば“古巣に戻った”ということになります。

ただし、この5年間には、南棟が建て替わり、電子カルテが導入され、人事考課も始まりました。企業主導型保育事業（院内保育所）の管理運営を主業務とする、保育管理課も新設されています。経理責任者として、各方面に少なからずかかわることもありましたが、ここは気持ちを新たに、謙虚に頑張っていく所存でございます。

総務部は、大きく、総務課、施設管理課、システム管理課、保育管理課からなり、約30名が所属しています。経営管理という視点でみると、個人個人が、かなり広範囲な職責を果たさなくてははいけません。若手でも、事前の根回しや職種間の調整、イベントを仕切っていく力が求められ、必要な情報が絶えず変化するなかで、柔軟に対応していく心持が大切です。

「立处皆真」という言葉があります。一ひとりひとりが、今いる立場を受け入れ、役割を全うしていく。そこに、次につながるヒントがある一と、解釈されます。まだまだ至らぬところは多々ありますが、どうぞよろしくお願いたします。（写真：右）